

武家奏聞之間、其沙汰候之由、同可令申入給、

○良基、菟玖波集ヲ撰スルコト、去年三月二十五日ノ條ニ見ユ、

十二日、甲寅細川賴之、幕府ノ命ヲ承ケ、三吉覺辨等ヲシテ、山口彦五郎竝ニ同彦八ノ備後地毗莊河北内門田地頭職ヲ押領スルヲ停メ、下地ヲ萬田家資ニ交付セシム、

〔山内首藤文書〕○十一

長門

〔端書〕「ふきやうそうてう」

ふきやうそうてう

万田又四郎家資申、備後國地毗莊河北内門田地頭職事、申狀副具如此、山内

彦五郎、同彦八押領云々、太無謂、早三吉修理亮相共莅彼所、沙汰付下地於家

資、可被執進請取狀、使節更不可有緩怠之狀、依仰執達如件、

延文二年閏七月十二日

〔細川賴之〕右馬頭 在判

大和太郎左衛門尉殿

○上杉顯能、幕府ノ命ヲ承ケ、門田地頭職ヲ、家資ニ交付スルコト、觀應二年六月八日ノ條ニ見ユ、

十六日、戊午北朝、前大僧正三寶院賢俊寂ス、